

# ご存じですか！文化財

97

## 「愛染明王像塔」

市史跡 昭和56年3月9日指定



問合せ  
生涯学習課  
(☎0480・62・1223)



小野袋518 鷲神社

辺地域にはこれ一体のみで、これは当時の小野袋村に二十六夜待講があったことを伝える確かな遺物です。

二十六夜待講というのは旧暦の正月、あるいは7月の26日の夜に月の出を待ち、精進供養をしたり、共同飲食をしたりする行事です。

江戸時代の民間信仰として、この地方で一般的であったのは、庚申塔の青面金剛・十九夜供養塔の如意輪観音で、石塔や石仏が随所に見られます。数は少ないものの二十三夜待講や十八夜待講も行っていました。

愛染明王の像が刻まれた小さな石塔(高さ67cm、幅28cm、厚さ20cm)が小野袋に所在する鷲神社境内にあります。

石塔には寛政五(1793)年と彫られていて、愛染明王の特徴である忿怒相も積年の風化が激しく識別が困難ですが、3対6本の手が確認できます。塔頂には笠がついていたと思われますが、現在は欠失しています。

石仏として愛染明王を刻むものは極めて珍しく、北川



愛染明王像塔

紹介者 渡辺 章さん(向古河)